

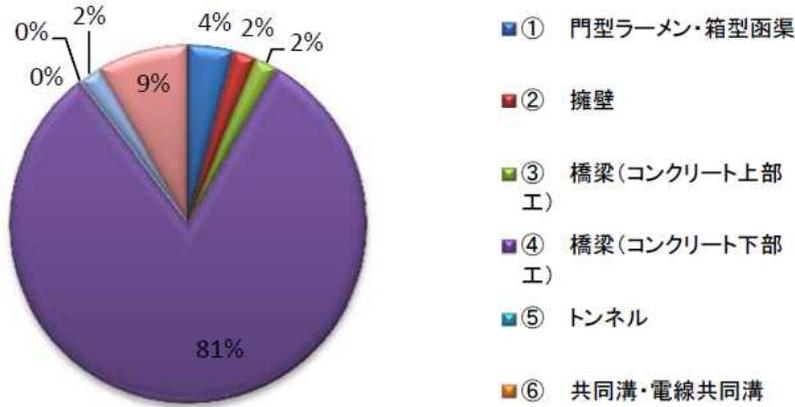
鉄筋定着ガイドラインのフォローアップ①

鉄筋定着ガイドラインのフォローアップの為、採用実績のアンケート調査を実施。
 工事、業務ともに「橋梁下部工」の「せん断補強鉄筋」での使用実績が多い。

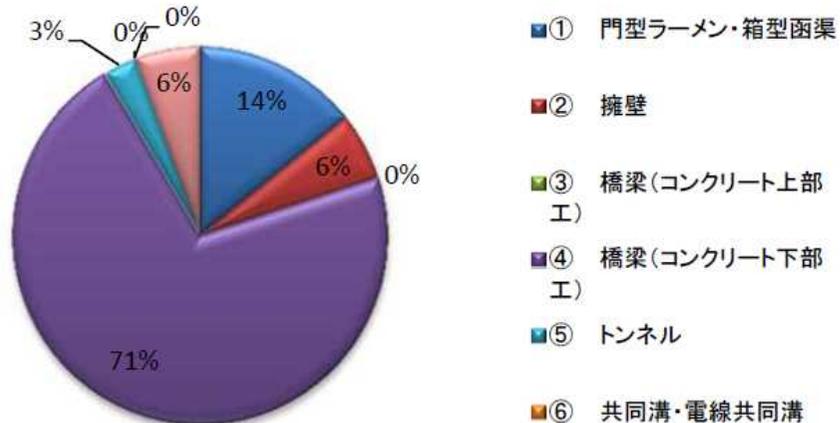
ガイドラインの採用分類

※回答数(平成28年7月~12月) 工事:138者 業務:131者

工事採用割合



業務採用割合

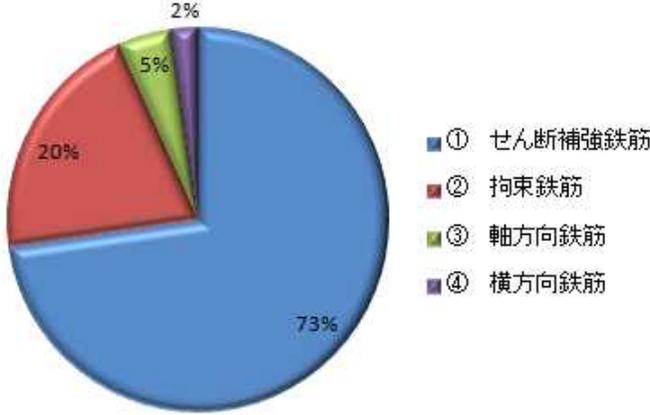


ガイドラインの採用用途

用途(工事)



用途(業務)

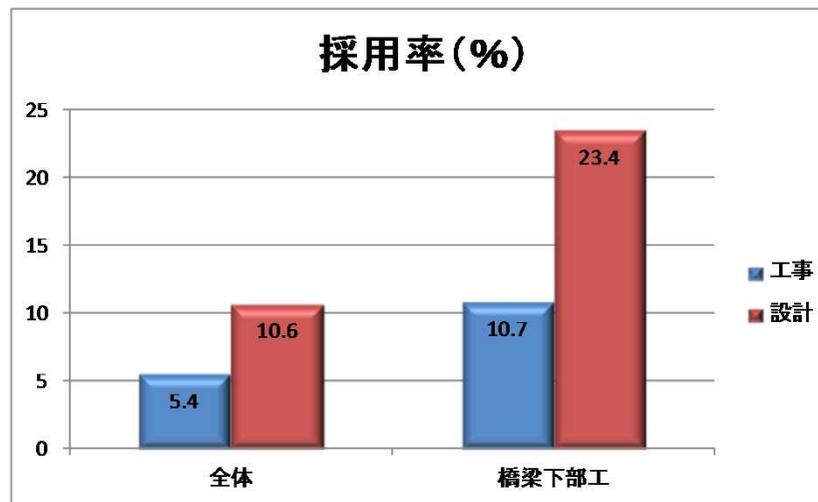


鉄筋定着ガイドラインのフォローアップ②

鉄筋定着ガイドラインの活用については設計段階からの活用が進んでいる傾向となった。採用理由としては「施工性の向上」が回答の約半数を占めた。

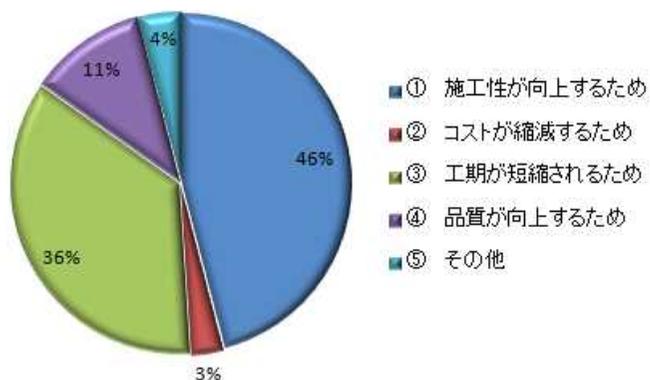
ガイドラインの採用実績

※ガイドラインに基づいて機械式定着工法を採用した割合



ガイドラインの採用理由

用途(工事)



用途(業務)



鉄筋定着ガイドラインのフォローアップ③

鉄筋定着工法を工事・設計業務で採用した場合の課題等について聴取した結果については、下記の通りとなった。

施工性向上や工期短縮になったという意見が多く、ガイドライン策定の狙い通り生産性の向上に繋がったものと考えられる。

良かった点

【工事】

- ✓ かぶりが確保しやすく、コンクリートのひび割れのリスクを減らす事ができる
- ✓ 組立時の干渉が減少するため組立が容易となり、鉄筋組立作業において工程短縮に繋がった

【業務】

- ✓ 深礎杭擁壁の枕梁部に採用することにより、用地制約上制限されていた構造高内とすることができた
- ✓ 配筋図作成において、鉄筋の取り合いの煩雑さが解消され、施工性に配慮した配筋図作成が可能となった

課題等

【工事】

- ✓ 定着プレートが直角になるよう結束しないと、かかりが浅く生コン打設時等に外れやすくなる

【業務】

- ✓ 各社の工法による差異が多少あるため、どの工法を採用しても良いようかぶり厚を調整するなど留意する必要がある